

子どもの未来を最優先！

林さえこの 柏市議会 Report

No.
29



〈発行〉2022.10.15

柏市議会議員
林 さえこ

〈お問い合わせ〉

林 さえこ事務所＆市民ネットワーク・かしわ
(事務局：火水金 9:00～13:00)

〒277-0011

柏市東上町2-28 第一水戸屋ビル 3F

Noblesse Oblige

TEL:080-7628-7737

各SNSは
こちらから
プロフィール



クラス担任制をやめてみる

土小学校リノベーション

先日、柏市立小中学校で初めて長寿命化工事を行った土小学校を視察しました。

学校施設は1960年代から70年代にかけての子どもの増加に対応し一斉に整備されたため、市内の学校施設の8割が建築後30年以上と老朽化が進んでいます。全てを建て替えるには1校あたり30億円以上の莫大な予算が必要であり、柏市では大規模改修で施設の長寿命化を図る流れです。

中でも土小学校は築50年以上。あと40年校舎を使えるようにと2020年に14.8億円を掛けて大規模改修が行われました。

学校運営の改革

もちろん施設の視察も大変有意義なものでしたが、何より驚いたのが、施設を改修した後の学校運営の改革です。

土小学校では、今年度から「学年担任制」を取っています。クラス担任を固定せず、学年の全教職員で学年の子ども達全員を見守る仕組みです。昨年度は試験的に6年生のみ運用していましたが、効果が見えたため全学年に広げたとのことでした。

9/14(水) 2022年第3回定例会 林 さえこ一般質問項目

- 5～11歳のコロナワクチン
- 中高生の居場所づくり
- 水遊び場所の維持
- HPVワクチン
- 教育への政治介入
- PTAの任意性確保
- 不登校家庭への情報提供
- クラス担任制から学年担任制へ
- 選挙ポスター掲示板Googleマップ化

定例会が9月2日(金)から9月22日(木)まで行われました。本会議の録画は柏市のHPで見ることができます。



※「一般質問」は市の事務の執行状況の報告や計画について市長や担当部長に質疑し、市民のための適切な市政運営を進めているかを議員がチェックするものです。

学年担任制のメリット

クラス担任制では、一人の教職員にクラスの子ども達全体の責任がかかり、問題があった時に抱え込んでしまうこともあります。学年担任制ではチームで対応することができます。教職員の年齢、経験値、能力に差があっても、複数の教職員で補い合い、それぞれの得意分野を活かして学年運営を行うことができます。複数の目が入ることで、子ども達のシグナルを見逃しにくくなり、教育活動の透明性が高まるため、不適切な指導や体罰も減るとされています。また、様々な教職員に関わりを持つことで、子どもの価値観を広げることにも寄与すると言われています。

学年担任制は、以前から私立の学校などで採用されていましたが、今、公立校でも少しずつ増えていて、映画「みんなの学校」の舞台の大都市立大空小学校や、学校改革で有名な千代田区立麹町中学校でも採用されています。

今回の議会では、このような実践例を広く共有し、他の学校の運営でも参考にしてほしいと求めました。これまでの制度を見直し、時代に合わせて柔軟に改善していくとする先進事例、他の学校の教職員や保護者にもぜひ知っていただき、一緒に考えていきたいと思います。



▲リノベーション後の土小学校

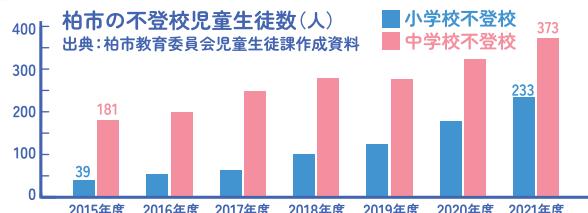
不登校の子どもの数は全国的に増加しています。柏市の小中学校63校では昨年600人に上りました。これに対して柏市教育委員会では、全中学校に別室を作り支援員を配置、教育支援センター「きぼうの園」や3か所の学習相談室で通所支援を行い、学校やそれぞれの施設での相談支援、更に学習相談室相談員やスクールソーシャルワーカーによる家庭訪問も行われています。これは近隣市より手厚い対応ですが、それでも600人の子ども全てが支援策に繋がる訳ではありません。

保護者の多くが共通して困っていることの一つが、必要な情報にアクセスしづらいということです。特に、教育委員会の支援策に繋がっていない家庭では、必要な書類が届けられない、担任やカウンセラーが不登校支援策に精通していないなどの理由で、家庭学習や進路検討に支障が出る場合があります。

不登校の家庭に情報を

教育委員会がせっかく実施している支援策も、学校から適切な情報提供がない場合は、存在自体が認識されません。

不登校の子どもや保護者は、毎日の生活や学習、進路などに大きな不安を抱えます。不安を和らげるためにも、不登校になったらすぐに柏市教育委員会の不登校支援策について情報提供すべきです。また、不登校の子ども向けの情報提供を多忙な学校現場任せにせず、教育委員会が直接各家庭に届け、情報格差を是正すべきと求めました。今は学校から保護者への連絡もLINEシステムが導入される時代です。改善を期待しています。



中高生の居場所がない

松戸市の青少年プラザ

思春期の子どもたちにとって、家庭や学校以外に、緩やかな見守りの中で安全に自由に過ごせる居場所があることはとても重要です。松戸市には「青少年プラザ」が5か所あり、千葉県で一番中高生の居場所づくりが進んでいます。そのうちの2か所を視察してきました。

昨年12月にOPENしたばかりの「ひがまつテラス」は、武蔵野線と北総線が通る東松戸駅徒歩4分の好立地で、1階に図書館、2階に市役所の出張所と青少年プラザが入っている複合施設です。青少年プラザは広々としたフリースペースや学習室、卓球スペース、予約制の多目的室と音楽室が備え付けられ、多くの中高生が勉強したり、おしゃべりをしたりしていました。

新京成線元山駅の駅ビル内にある「アティーズ元山」の青少年プラザは、NPOキャリアデザイン研究所が、もう1か所の「アティーズ八柱」と共に、松戸市から委託を受けて運営しています。小規模でアットホームな雰囲気の部屋で、スタッフによるきめ細やかな心配りと、子どもたちを迎える姿勢が印象的でした。



アティーズ元山青少年プラザ ひがまつテラス 青少年プラザ

柏市はこれから

柏市では、豊四季台児童センターや篠籠田児童センターが土日の時間を中高生向けに開放したり、市民活動センター「パレット柏」や教育福祉会館「ラコルタ柏」が中高生の利用を進めたりなどの努力は見られます、中高生の居場所としてハード面の整備はありません。

2026年には十余ニに児童相談所が設置される計画ですが、子ども・若者総合支援センターという複合施設になる予定で、これが柏市の中高生の居場所づくりの第一歩になりそうです。しかし駅から少し離れている敷地で、中高生が気軽に立ち寄れる施設になるのかは疑問です。

子どもの居場所づくりで何より重要なのは、子ども自身がアクセスしやすいことです。駅前などへの設置が望ましく、あちこちに作ることが重要です。大規模な施設を1つだけ作って満足するのではなく、計画的に全地域に居場所を広げてほしいと考えます。

組織体制の見直しを

柏市には、中高生の居場所づくりを把握し推進する部署がありません。子どもの居場所づくりに関する事業は小さな子どもを対象にするものが多く、「こども部」と「教育委員会生涯学習部」に分散していく連携に不安があります。だからなのか、小学生向けの「放課後こども教室」事業も、他市では本来の目的通り、毎日の放課後の居場所づくりとして広がっていますが、柏市では居場所づくりではなく週に1回の学習支援になってしまっています。

子どもの居場所づくりは、全年齢に切れ目なく、全地域に広げていくべきであり、それを推進する部署も必要です。現在の組織体制の見直しを求めたところ前向きな答弁がありましたので、改善を期待します。

減っていく水遊び場所

市民プールの削減計画

柏市の水遊び場所は、リフレッシュプラザの屋内温水プール、5か所の市民プール、2か所のじゃぶじゃぶ池が主な施設です。

しかし、公共施設等総合管理計画で2035年まで存続する計画だった大津ヶ丘市民プールは、排水管の故障により前倒しで閉鎖され、今年度は幼児プールのみの運営になりました。ひばりが丘市民プールと柏西口第一公園プールもいずれは廃止予定の計画になっています。

じゃぶじゃぶ池はすぐに修理を

北柏ふるさと公園のじゃぶじゃぶ池は、3年ぶりに再開しようとしたところ故障が発覚し、修繕するか管理が容易な施設に変更するかの検討のため、今年度は小規模な噴水の実証実験に切り替わりました。年度中に修繕する予定ではなく、少なくとも次年度は今年度同様、かなり規模を縮小した噴水施設の運営になる予定です。

北柏ふるさと公園のじゃぶじゃぶ池は、公共施設総合管理計画で「日常的な点検や定期的な修繕に加え、計画的な保全により『現状のまま存続』する。」とされている施設です。元々の施設のままで十分人気だったのにも関わらず、大きく規模が縮小されるようなことがあれば大変問題であり、早急に修繕するよう求めました。

柏市の主な水遊び施設



水泳授業は委託化へ

小中学校62か所(柏の葉小中学校のプールは共用)には学校プールがありますが、今年度は5校が水泳授業を民間の水泳教室に委託しました。いずれは全ての学校で水泳授業が外部委託化される方向で検討されています。老朽化している多くの学校プールが順次廃止され、水泳授業を委託できる民間施設が近くにない場合のみ学校プールを改修して維持し、外部から講師を派遣する形になります。

毎年夏休みには、学校プールのうち数か所で小学生対象のプール開放を実施していますが、学校プールが少なくなれば、夏休みのプール開放も縮小されるでしょう。

夏の貴重な居場所

気候変動により真夏日や猛暑日は増加傾向であり、消防庁によると、2010年以降、熱中症搬送数は大きく増加しています。災害レベルの暑さの中で、子ども達は日の外遊びが難しくなり、部活動も度々中止されるようになりました。涼みながら遊べる水遊び場所は以前よりはるかに重要度を増しています。

維持の負担が大きい施設を、時代に合わせて維持しやすい形に変更していくことは、やむを得ません。しかし同時に、子どもの居場所としての水遊び場所を縮小させずに、総量として維持することが必要と考えます。市長からは可能な限り既存の水遊び施設を利用できるよう努めるという答弁があり、公共施設総合管理計画の見直しについても言及されました。今後の対応に期待します。

市民 プール

2022年度は、期間、定員、時間、枠数を縮小し、人数制限を行い運営。

学校プール 開放

2022年の夏休みは、7小学校で5~10日間の開放を実施。(水泳授業は外部委託され、老朽化した学校プールから廃止・除却される方向性)

現役ママ議員としゃべろう

LINE相談・おはなし会



柏市へのご要望、暮らしの困りごとなど、公式LINEにてお気軽にご相談ください。議会報告会やおはなし会も開催いたします。ご希望の方はお問い合わせください。